

（再掲）斜里町・羅臼町のヒグマの状況等について

（2019年度第2回 知床世界自然遺産地域連絡会議資料・増補版）

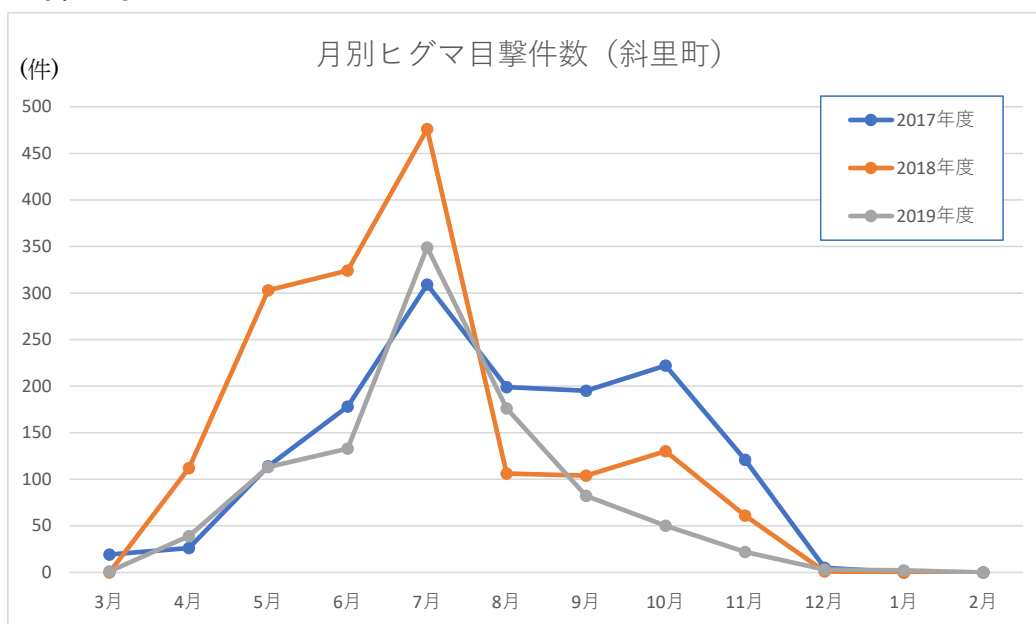
1. 2019年度（クマ年度）のヒグマ目撃件数など（2019年3月1日～2020年2月29日）

	斜里町	羅臼町	合計
目撃件数	970 (1617) 件	339 (285) 件	1309 (1902) 件
対応件数	519 (1050) 件	268 (215) 件	787 (1265) 件
有害駆除頭数	26 (11) 頭	13 (12) 頭	39 (23) 頭

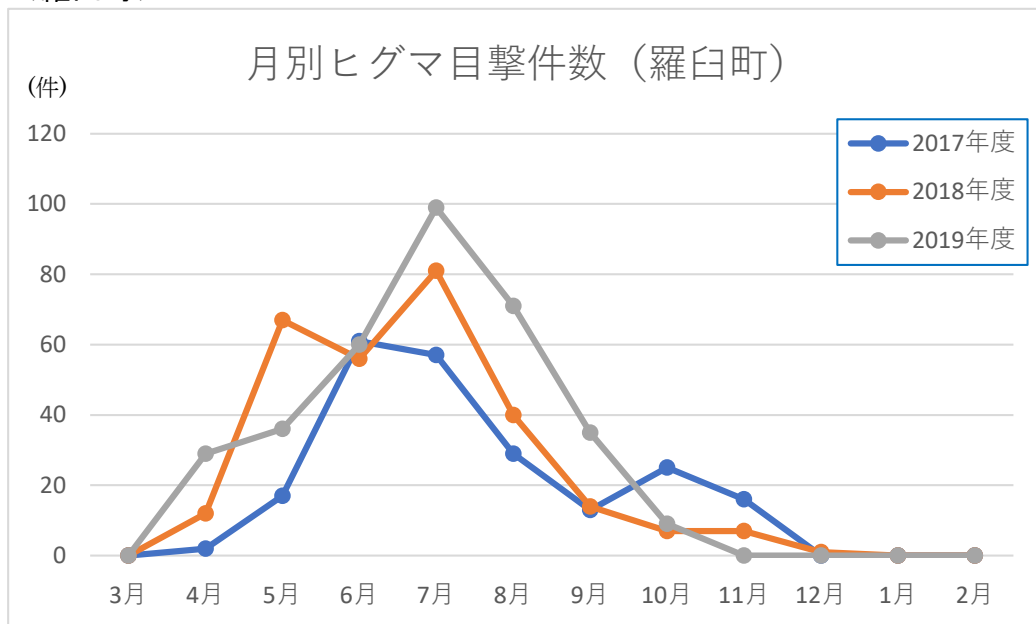
※（）内は前年度の数字。

2. 2017-2019年度のヒグマ目撃件数推移（月別）

<斜里町>

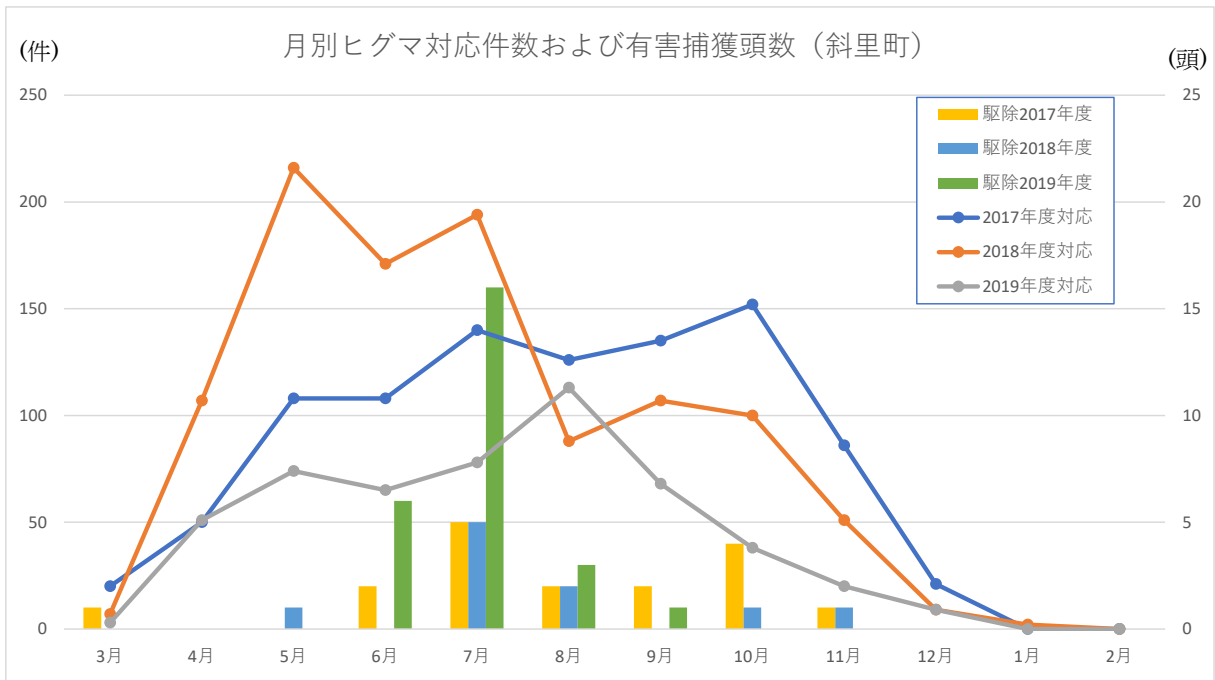


<羅臼町>

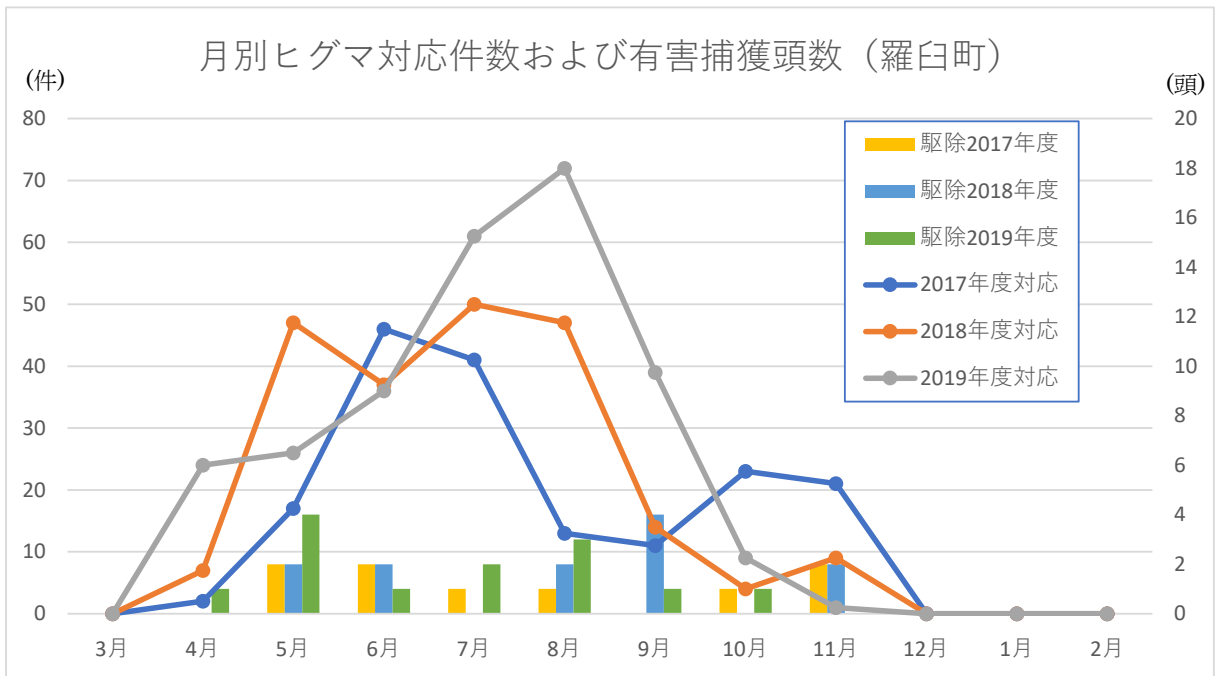


3. 2017-2019年度のヒグマ対策活動件数（対応件数：折れ線グラフ）および有害捕獲（駆除）頭数（縦棒グラフ）の推移（月別）

<斜里町>



<羅臼町>



4. 2019年度のトピック

<斜里町>

- ① **情報発信強化** ビジター等への普及啓発・情報発信を強化するため、既存のフェイスブック（BearSafetyShiretoko）とホームページ（知床のひぐま）に続いて、ツイッター（Bear Safety Shiretoko）とインスタグラム（bear_safety_shiretoko）による発信を2019年4月より開始しました。ビジターが知床に到着する前に、正しい知識を得ることができる状態を目指しています。

ただし、確信犯的にヒグマに接近する一部の人々の行動を変えることはできていませんし、今後も普及啓発だけでは難しいでしょう。

- ② **ヒグマの「制度慣れ」進行中** 知床五湖の地上遊歩道における「ヒグマ活動期」（登録引率者ガイドの同行必須期間：5/10～7/31）のヒグマ遭遇件数が過去最多（186件）を記録した一方、ツアー中止は25件（13.4%）のみでした。ガイドツアーを忌避しないヒグマ（複数）が、ツアーと次々遭遇する状況が昨年引き続き発生したためです。ヒグマは人を見ても逃げない方向で学習強化されるため、「植生保護期」に8/1に切り替わった途端に、遊歩道閉鎖が続きました。

課題：ヒグマの状態が変化し、五湖利用調整地区の制度が設計当初のままでは通用しなくなりつつあります。人なれ個体が減る見込みは今後も無いため、五湖のみならず、国立公園内全体でヒグマに対する接し方を再検討する必要があります。

また、「ヒグマ活動期」に親子グマと近距離遭遇したガイドツアーがツアー継続を宣言し、後続ツアーが連続遭遇する状況には、ヒグマの威嚇突進・突発的な攻撃など安全管理上の懸念があります。さらに管理者側にとっては、制度や安全性に関する対外的な説明が困難となっています。

- ③ **いつまでも解決しないクマ渋滞問題** クマ渋滞（Bear jam）や降車してヒグマに接近して撮影する事例（野生動物へのハラスメント）が、国立公園内（主に幌別～岩尾別～五湖手前）で2019年も相変わらず発生しました。9月の連休には現場の混乱状況が首都圏のTVキー局にとりあげられ、何度か全国放送されました。

上記のエリアでは多数の車両が通行する上に、ヒグマが道路沿いに頻繁に出現するため（次ページの図参照）、何も対策をしなければクマ渋滞等の混乱は必然的に発生します。

課題：多くのTV局はクマ渋滞問題を単なる観光客のモラル・マナーの問題として、矮小化・単純化して伝えていました。しかしこの問題は、根本的には公園利用者のアクセス手段をデザインし直さないと永遠に解決しません。ヒグマ目撃時のビジターの降車や接近撮影を、法や条例で強制力を伴って規制することは現状では困難です。そのため、クマ渋滞による交通障害・交通事故の発生防止、ヒグマの突発的な突進・攻撃による人身事故の発生防止、および、過度の人なれ進行等によるヒグマの駆除数増加抑制の3点の理由から、ウトロ市街～幌別園地～五湖のシャトルバスシステム等への切り替えが必要です。そもそも5～10月の週末や連休、お盆時期などに、知床国立公園の受け入れ能力（道路幅、各登山口・各施設の駐車場の収容能力等含む）を超える数のマイカー・レンタカーの入込がある状態が長年放置されてきたことが問題の元凶です。交通弱者である外国人旅行者にも優しい国立公園・世界遺産を目指すのであれば、クマ渋滞の問題が無くても、公園内の新しい交通シス

テムの整備は喫緊の課題と言えます。さらに、新システムへの乗り換え客が車内から安全にヒグマを観察することができ、多言語解説も聞けるような良質なサービスを提供できれば、知床の新たな観光資源として発展する可能性もあります。



写真1. 岩尾別橋のクマ渋滞

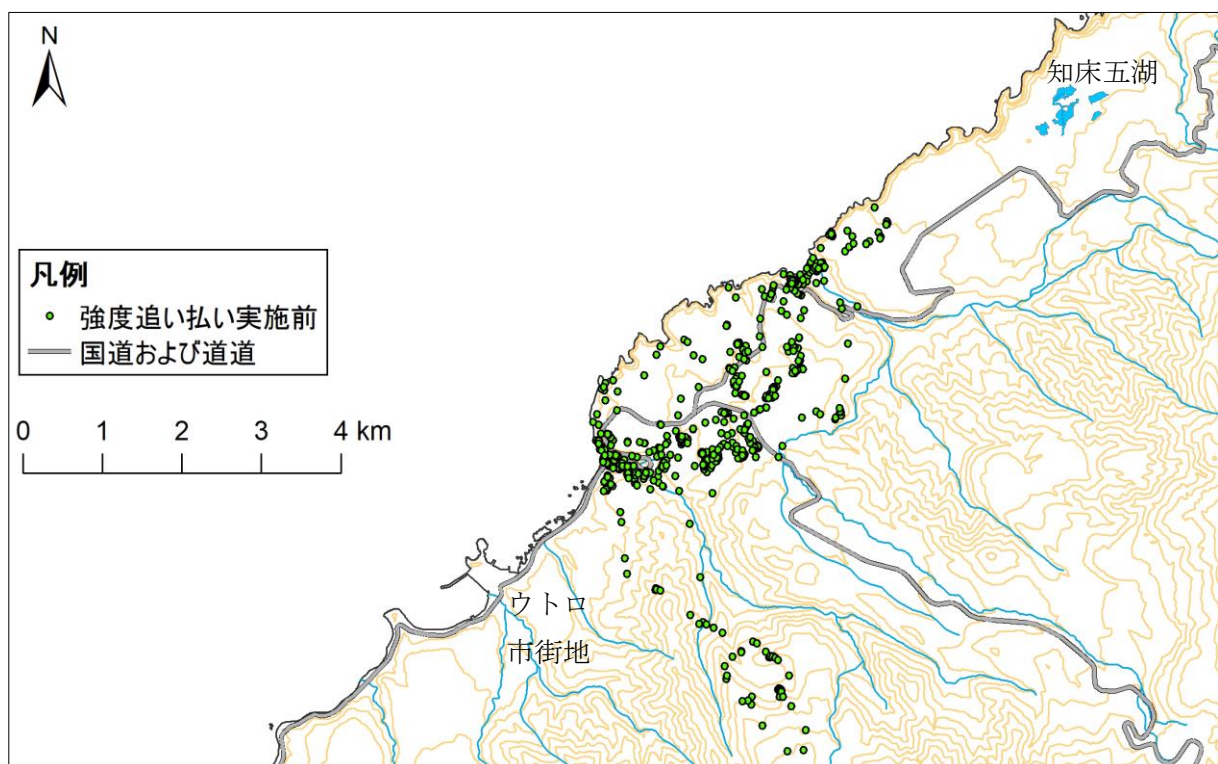


図1. ヒグマの道路沿い利用の一例：ある0歳1頭連れ親子グマの1時間ごとの位置情報（2018年10/4～10/15）

- ④ **1月中旬にヒグマ目撃** 2020年1月14日と同1月17日に、国立公園内の岩尾別川周辺や知床五湖園地で雪景色の中、ヒグマが目撃されました。斜里町ウトロ付近では、年末年始頃にヒグマが目撃される事例は時々ありますが、さすがに1月中旬の目撃は稀です。秋のミズナラ堅果（ドングリ）の豊作と初冬の少ない積雪量の相乗効果により、ヒグマが雪を少し掘れば簡単にドングリを採食できる状況となっていたため、一部のヒグマの冬眠入りが遅れていたと推測されます。なお、ヒグマやツキノワグマでは一般的に、晩秋の食物が豊富なら冬眠入りが遅れ、逆に同時期の食物が少なければ早めに冬眠入りすることが知られています。今回の目撃も珍しい事例ではありますが、特段驚くべき異常事態ではありません。

<幌別-岩尾別地区>

幌別・岩尾別地区で確認されたヒグマに関する渋滞（複数台がヒグマ観察を目的に路上に停車し、通行に不安が生じるような状態）は34件（5月7件、7月3件、8月9件、9月15件）であった（通報を受けて現地に赴いたが、すでに問題が解消していたケースも含む）。

危険事例には含めていないものの、9月に入ると岩尾別川に出没するヒグマを撮影しようとするカメラマンや観光客による渋滞がたびたび確認された（写真1～3）。特に3連休の週末には、連日のように渋滞が発生し、警察にも頻繁に対応をお願いする状況となった。ヒグマが出没していないときも岩尾別橋の路側帯でカメラマンが三脚や組み立て式の椅子を置き、ヒグマの出没を待っている様子が確認された。対策スタッフは車に轢かれそうになる利用者の姿を目撃しており、ヒグマによる人身事故の発生と同時に、交通事故の発生を懸念する状況が発生した。さらに9月後半になると、岩尾別川河口を見下ろす連続カーブに車を停車し、ヒグマを観察する状況が発生した。

9月の連休中の対応件数・時間を前年と比較すると、2019年度9月14～16、21～23日における幌別-岩尾別地区の道路沿いでのクマ出没時の対応は16件、対応時間は計8時間32分であり、1件あたりの対応時間は約32分であった（表3）。2018年度9月15～17、22～24日における対応件数は22件、対応時間は16時間29分であり、1件あたりの対応時間は約45分であった。

昨年度は0歳を連れたMK親子が出没を繰り返しており、今年度は単独もしくは亜成獣2頭が出没を繰り返していた。各種条件（出没していた個体、サケマスの遡上状況等）が異なるため単純に比較することはできないが、結果的に9月の3連休中の対応回数や対応時間は減少した。



写真1. 2019年9月15日 岩尾別橋周辺での渋滞の様子



写真2. 2019年9月16日 岩尾別川に出没したヒグマを撮影する人たち



写真3. 2019年9月26日 岩尾別川河口を見下ろすカーブにおける混雑の状況

表 3. 2019（令和元年）年度9月の連休中に発生した岩尾別地区での渋滞状況

日付	開始時刻	終了時刻	対応時間	渋滞発生時間	車両台数	カメラマン等
9/13(金)	16:13	17:25	1:12	55	10	40
	9:15	9:30	0:15	無し	14	10
9/14(土)	17:15	17:40	0:25	25	20	20
	9:00	9:20	0:20	無し	3	9
9/15(日)	15:32	16:22	0:50	45	30	30
	9:20	10:20	1:00	無し	12	7
9/16(月)	15:50	16:20	0:30	20	11	18
	10:07	10:30	0:23	既に解消済み	5	2
9/21(金)	13:07	13:35	0:28	10	23	45
	16:00	16:30	0:30	無し	10	2
9/22(土)	9:27	10:20	0:53	20	10	10
	14:45	16:00	1:15	5	12	18
9/23(日)	9:05	9:25	0:20	無し	9	4
	15:00	15:20	0:20	無し	4	0
9/23(月)	9:15	9:50	0:35	無し	5	3
	15:15	15:50	0:35	無し	4	5
計			591分	180分	182台	223人

<羅臼町>

- ① **飼い犬被害が連続発生** 外飼いでつながれていた犬が、連続してヒグマに食害されました（2019年7/10 海岸町，7/27 峯浜町，8/3 春日町）。2件目の現場確認中には4名がヒグマの威嚇突進を受け、足場の悪い海岸の石浜で転倒した知床財団職員1名が骨折等の重傷を負いました。現場付近で回収したクマ糞のDNA分析（北大実施）の結果より、オス成獣の同一個体（個体名：RT）が、前年8月の犬2頭の同時食害も含む計4件すべての犬食害の加害個体と推測されています。この加害個体（RT）は未捕獲のまま冬を迎えました。なお、RTは2018年の食害の際には、犬食害後まもなく斜里町側の国立公園内へ移動したことが、公園内の体毛のDNA分析により判明しています。オス成獣は広域を移動するため、今後は羅臼だけでなく、斜里や標津でも犬が食害される可能性があります。

課題：各事例とも共通して住宅脇の深いヤブがヒグマの侵入経路・犬への接近経路となっていたため、草刈りが有効な対策と考えられます。しかし町内全域でヤブの草刈り活動を確実に実施するためには、住民自身が危機感を持って地域ぐるみの活動にする必要があります。また後述②③の事例も含めて、全町の大半を占める国有林、国立公園特別保護地区および国指定鳥獣保護区などの保護区から隣接する住宅地周辺へ移動・分散してくるヒグマが多くの問題を起こしており、自治体が担っている住宅地のヒグマ対策に対する、保護区の管理機関による責任ある関与と積極的支援が求められています。

- ② **住宅地で生ゴミ・干し魚・水産加工残渣の食害と建物被害が相変わらず発生** 夜間に生ゴミや魚を屋外に放置したためヒグマに荒らされる事例が2019年も再び発生しました（9/4, 5, 10）。また水産加工場や残渣運搬会社の施設・トラックがヒグマに破壊される被害も発生しました（7/19, 8/8）。ヒグマが住宅地の海岸で何度も目撃されたため調査したところ、家庭から排出された疑いが濃厚な不法投棄の生ゴミが、ヒグマの滞留場所で発見されました（9/30）。10/25には海岸で生ゴミを食べていたヒグマのメス成獣が駆除されました。

課題：人為的食物に餌付いた、通常より1～2段階危険なヒグマ（人身事故を発生させやすいヒグマ）を住民自らが繰り返し作り出していることへの地域の危機感は、重大事件が毎年連続発生しているにも関わらず低調です。一方、住宅地周辺でのヒグマ捕獲作業の総合的なリスクは年々上昇しており、近い将来、重大な事件・事故が起こっても、従来のように問題個体の迅速な捕獲によって事態を早期に鎮静化することが困難になる恐れが出てきています。

- ③ **動物死体がヒグマを強力に誘引** 2019年5月以降、羅臼町内各地でトド等の海生哺乳類の死体漂着が例年以上に多発し、住宅地周辺での誘引物除去作業がたびたび発生しました。知床岬への海岸線トレッキングコースにも数頭分のトド死体が漂着し（7月下旬～8月中旬）、死体に執着しているヒグマからトレッカーが威嚇突進（ブラフチャージ）される事例も発生しました。それらを受けて人身事故防止のため、関係機関連名のチラシを相泊の入林箱に設置しました。

知床横断道路（知床峠～羅臼湖入口間）でもエゾシカオス成獣の土饅頭状態の死体を緊急回収しました（8/9）。なお、死体回収作業の前後の時間帯に計2回、ヒグマが一般車両のボディーを前肢で叩いていたことが発覚したため、SNS・看板等で注意喚起しました。幸い当該ヒグマはその後大きな問題を起こしていません

が、横断道路は自転車やバイクが多数通過するため、人身事故に至らなかったのは単なる偶然に過ぎなかった可能性もあります。

課題：現在の知床には、人の側の行動をコントロールできるような国立公園利用調整システムが、大半のエリアにおいて存在しません。そのため、たとえ人命を守るためであっても、緊急時に国立公園利用者の行動を制限することができない点が大きな課題となっています。



写真2. 知床峠におけるエゾシカ死体回収時に接近・威嚇してきたヒグマ（2019年8/9）



知床のひぐま（HP）



Bear Safety Shiretoko
(Facebook)



Bear Safety Shiretoko
(Twitter)



bear_safety_shiretoko
(Instagram)

5. 2020年度（クマ年度）3～6月のトピック

- ① **危険事例が両町で発生** 斜里町側では、ガイドツアー客が体から離して置いていたディパックをヒグマが口にくわえる行動（2020年3/29 男の涙方面）や、遭遇後に引き返す地元ガイドの後を追うように接近してくるヒグマの存在が確認されました（3/31 フレペの滝遊歩道）。ヒグマとの最接近距離は1-2mと報告され、いずれも同一の若いオスグマと推測されています。

一方、羅臼町側では、知床岬付近の赤岩海岸で野営をしていた地元ガイドが、走って接近してきた1頭のヒグマにしばらくつきまとわれ、最終的に距離3mでクマスプレーを噴射して追い払う事例が発生しました（4/12）。

これらの事例が、国立公園内でのヒグマの人のなれの深刻化を示しているのか、人のなれの次の段階として起こりやすいヒグマの餌付き状態の結果なのかは不明です。ただし、人間側が一步対応を誤れば人身事故につながりかねない危険な事例が、知床国立公園内の異なるエリアで春先から複数回発生したことには、今後十分な注意を払う必要があります。

- ② **子グマが不法投棄ゴミに餌付く？** 斜里町幌別地区の国立公園境界付近で春先から頻繁に目撃されている1歳2頭連れ親子のうち、子グマ2頭が、ゴミ袋を口にくわえる行動や、ペットボトルのフタを口と前肢で開けるような行動が観察されました。同地区では食べ残しや食品包装を含むゴミの不法投棄が何度も確認されており、今春はゴミ袋が混ざったクマ糞も発見されています。DNA分析の結果、左記の糞をしたクマはペットボトルのフタを開けた子グマと同一個体でした。

残念ながらこれら2頭の子グマは、既にゴミに餌付いてしまっている可能性が高く、今夏以降に母グマから別れた後にウトロ市街地等へ侵入した場合、単なる市街地迷入個体よりも危険な行動をとる可能性があります。



写真3. 泥水の入ったコンビニ袋を口にくわえている子グマ（2020年5/5 幌別駐車帯付近）

（データ等とりまとめ：知床財団）